

ながの植物防疫

一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837
長野市大字南長野字幅下667-6
長野県土木センター内
電話 026-235-3510
FAX 026-235-3583



新年を迎えて

一般社団法人長野県植物防疫協会 会長 北原富裕

明けましておめでとうございます。
皆様には輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、協会の事業推進にご理解・ご協力を賜っておりますことに熱く感謝申し上げます。

昨年の気象を振り返りますと、大きな気象災害は無かったものの春先の凍霜害、夏の記録的猛暑、秋も11月に夏日がある高温などの影響により、贈答用りんごの品薄や水稻の1等米比率低下を始め農業生産に苦勞の多かった年となり、生産者の皆様方にお見舞いたします。世界各地に目を向けても様々な気象災害が頻発し、国連は、もはや「地球温暖化」を越え「地球沸騰化」の時代に突入したとまで発表しました。これからは、今までは異常気象と言われたものが毎年でも現れることと想定される中での農業生産や栽培管理が求められることとなります。さらに、気候変動に伴う新たな病害虫の発生や侵入拡大が危惧されます。

また、ウクライナ戦争が依然として続く中、10月にはガザ地区でのイスラエルとハマスの戦闘が勃発するなど平和と安全が脅かされる事態が世界各地で起こっています。国家間の対立によるエネルギーや食料、産業資源などの供給不安定化が、我が国の経済安全保障や国民生活の安定にとって大きな課題と不安となっており、農業分野においても、燃油・肥料・農薬・飼料等の生産資材の高騰が農業経営を圧迫しております。国は、本年の通常国会に食料安全保障の強化、国産農産物の輸出促進、農業のグリーン化、スマート農業の導入を柱とした食料・農業・農村基本法の改正案を提出することとしており、植物防疫の分野においても環境にやさしい農薬や資材の開発普及、スマート農機等の導入利用への対応強化が求められることとなります。

この様な情勢の中、昨年9月に長野市で開催された日本植物防疫協会の9年ぶりの現地シンポジウムでは、「中山間地域における病害虫防除の課題」として事例発表と討議がされ、今後の対応が確認されたところです。協会としましては、これら社会情勢や農業を取り巻く状況の変化や課題に迅速・的確に対応し、植物防疫事業への取り組みを一層充実してまいります。

今年は、当協会の設立70周年となり記念行事も予定しておりますので関係する皆様方の多数のご参加を期待するところです。

結びに、関係各位の益々のご健勝と長野県農業の発展をご祈念申し上げ新年のごあいさついたします。



新年あいさつ

長野県農業試験場長 鈴木正幸

新年あけましておめでとうございます。
長かったコロナ禍もようやく一段落し、皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より試験研究の推進にご支援とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、春には果樹を中心に凍霜害による被害が発生し、夏は記録的な猛暑と少雨により、水稻では白未熟粒や胴割米、りんごでは日焼けや着色不良、レタスでは生育遅延が発生するなど、農業者の皆さまにおかれましては、改めて温暖化の影響を痛感した年であったかと思えます。

県では、今年度から「第4期長野県食と農業農村振興計画」をスタートさせ、農業関係試験場においても、その計画を具体的に進めるための指針として策定した「長野県農業関係試験研究推進計画～農業技術ステップアッププログラム～」に基づき、新たな5か年の研究をスタートさせたところです。新たな計画では「地球環境に配慮し持続可能な農業を実現するための技術開発」を一つの柱とし、地球温暖化に対応した技術や品種の開発に取り組んでおり、一刻も早く農業者の皆様提案できるように研究を加速してまいります。また、もう一つの柱として「生産力を強化し収益性を高めるための技術開発」を掲げており、新品種の開発、先進技術の活用、安定生産のための課題解決により、食農計画の「皆が憧れ、稼げる信州農業の実現」に寄与できるよう研究を推進してまいりますので、今後とも、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、(一社)長野県植物防疫協会の益々のご発展と関係の皆様方のご多幸をご祈念申し上げ、年頭のごあいさついたします。

目次	
新年あいさつ	1
令和5年の病害虫発生を振り返って	2
夏秋どりいちごのアザミウマ類防除技術	2
話題の農薬「スワルバンカー®ロング」	5
植防短信	6
協会だより	7

令和5年の 病害虫発生を振り返って

長野県病害虫防除所

1 水稻

葉いもちは、北信で、6月～7月第3半旬に感染好適条件の出現数が平年と比べ多く、7月中旬以降、発病株率が急増するほ場がみられたため、7月21日に北信を対象に地区注意報を発表し、防除を呼び掛けた。その後は好天に恵まれ、病勢は停滞し、葉いもちは、全般にやや少ない発生であった。穂いもちは、常習発生地等で発病穂率の高いほ場がみられたが、全般に平年並の発生であった。

斑点米カメムシ類は、7月の本田すくい取り調査では、捕獲頭数は東信を除き、平年と比べ少なかった。8月は東信で捕獲頭数が多く、全県で捕獲地点率が高かった。斑点米の発生は、一部の地域でやや多かったが、全般には平年並の発生であった。

2 麦類

コムギ赤かび病は、6月上旬の巡回調査で各地で発生が確認され、令和3年に次ぐ多い発生であった。

コムギなまぐさ黒穂病は、6月上旬頃から、一部地域で発生が確認された。発生ほ場では、発生の程度に応じて、廃棄処分等の対応がとられた。

3 果樹

リンゴ黒星病は、巡回調査では初発を6月下旬に確認し、全般に発生量は平年と比べやや少なかった。前年に発生が多かったほ場や適期に防除できなかったほ場では、発生がやや多くみられた。

リンゴ褐斑病は、巡回調査では初発を7月上旬に確認し、発生量は平年並～やや多かった。各地で早期落葉などの被害がみられ、薬剤散布の間隔があいたり、薬液がかかりにくい所で発生が多かった。

りんごのハダニ類は、5月下旬から寄生がみられ、発生量はリンゴハダニが平年並、ナミハダニが平年並～やや多かった。7月下旬～9月中旬まで高温干ばつ気味で、薬剤散布の間隔があいたり、適期に防

除できなかったほ場で発生密度が高かった。

ナシ黒星病は、薬剤のかかりにくい所で発病がみられたが、発生量は平年並～やや少なかった。

ブドウべと病は、巡回調査では6月下旬から各地で枝葉に発病がみられ、降雨により発病範囲が拡大した。発生量は平年と比べやや多かった。

ブドウ黒とう病は、巡回調査では7月下旬に北信の一部のほ場で、茎葉への発病がみられた。発生量は平年と比べ多かった。

モモせん孔細菌病は、巡回調査では春型枝病斑はやや少なかったが、夏以降は東北信を中心に発病葉がやや多くみられた。一部のほ場では果実の被害もみられたが、発生量は平年並であった。

4 野菜

果菜類では、梅雨期にジュース用トマトで疫病、施設栽培トマトで疫病、輪紋病の発生がみられた。きゅうりの露地栽培では、梅雨期及び8月以降にべと病、炭疽病、施設栽培では北信で炭疽病、褐斑病の発生がみられた。虫害は、各地でアザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類の発生がみられ、ジュース用トマトでオオタバコガ幼虫の被害が目立つところもあった。

アブラナ科野菜では、東北信の一部でキャベツでべと病、黒腐病、株腐病、菌核病、はくさいでべと病、ピシウム腐敗病、ブロッコリーでべと病、黒すす病、黒斑細菌病の発生がみられた。気温が高く、連続降雨が少なかったことから、軟腐病や黒斑細菌病等の発生は限定的であった。虫害では、各地でチョウ目害虫の食害が栽培期間を通して多くみられ、コナガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、概ね平年並～やや少なかった。

レタスでは、東北信で平年と比べ、すそ枯病の発生が目立ち、斑点細菌病も各地でみられた。腐敗病、軟腐病の発生は一部の地域と限定的であった。

アスパラガスでは、斑点病は各地で7月以降に、茎枯病も露地栽培を中心にみられ、平年に比べやや多い発生であった。虫害ではアブラムシ類、アザミウマ類及びハダニ類の寄生がみられ、一部の地域で多いところもみられた。

夏秋どりいちごの アザミウマ類防除技術

野菜花き試験場 岩田直樹

〈夏秋どりいちご栽培におけるアザミウマ類対策〉

県内の夏秋どりいちごは中信地域や佐久地域で栽培が盛んであり、生産者数及び面積も増加傾向にあ

る。しかし栽培期間が3月～12月の長期にわたり盛夏期を挟むことから病害虫への対策が毎年課題となっている。特にアザミウマ類は果実を直接加害して商品価値を低下させる点、また薬剤への感受性が低下して防除が難しい点などから、各産地で大きな問題となっている。

なお、現在県内の夏秋どりいちごで発生しているアザミウマ類の多くはヒラズハナアザミウマ(図1)であるが、かつてはミカンキイロアザミウマが優占

種であった事もある。今後も優占種が置き換わる可能性もあるため注意が必要である。

■ヒラズハナアザミウマの生態及び特徴

日本在来種であり、体長は雌成虫が1.3～1.7mm程度、雄成虫が1.0～1.2mm程度で、アザミウマ類の中ではやや大型である。雌成虫の体色は褐色～暗褐色であるが、やや色彩変異がみられ、頭部及び胸部は黄色、腹部のみ褐色となることもある。雄成虫は一様に黄色である。

生育は非常に速く、25℃では卵期間は3日、ふ化から羽化まで7日、産卵前期間は1日と、2週間足らずで世代を交代する。また、雌成虫の生存期間は50日程度と長く、生涯で500個程の卵を産む。そのため盛夏期では発生初期の防除に失敗すると急激に密度が増加しやすい。

本種はいちごの他にもナス科、ウリ科、花き類等広範な植物を寄主とし、幼果や花卉を吸汁加害する。花粉を求めて花部分に集まりやすく、花きでは花卉が食害されるとかすり状の食害痕や脱色が生じ、商品価値を低下させる。また、ナスやいちごでは果実表面がさび状に褐変する。

短日、低温条件により繁殖力が低下し、越冬準備に入る。いちごにおける果実被害は幼虫によるものが大きいと、秋以降の発生では春～夏に比べ大きな被害にはなりにくいとされる。越冬は成虫で行い、翌春3月以降、気温の上昇に伴って活動を再開する。

■防除と対策

野外では3月末～4月初頭にかけて有色粘着トラップに捕殺され始めるが、無加温の夏秋どりいちご栽培の場合、施設内で問題となり始めるのは5月上旬～中旬以降である。これは野外の気温の上昇及び周辺雑草の開花が影響していると考えられる。ハナアザミウマ類は植物の花粉を摂取することで繁殖力が高まる事が知られており、3～4月に発生した成虫が野外の雑草（タンポポ、シロツメクサ等）の開花とともに生息密度が高まり、その後ほ場へ飛び込んでくると考えられる。そのため、施設周辺の雑草はなるべく開花する前に除草することが望ましい。5月以降は施設内外で増殖をしながら12月まで発生が続くが、県内の夏秋どりいちご栽培ほ場の多くでは5月末～6月初頭の高温期、7月下旬～8月初頭の梅雨明け期、10月上旬の突発的な高温期が主な多発タイミングとなる。特に注意が必要なのは7月下旬の梅雨明け後の高温期で、梅雨の間は一見して花上のアザミウマが減っているように見えるが幼果の隙間などで幼虫は増えており、それらが防除されずに梅雨明けを迎えると一斉に羽化し大発生となる。この時期の大発生はアザミウマの発育も早く、薬剤散布をしても次々と卵が孵化して成虫へ成長するため

防除が非常に難しい。幼虫の数も多いため被害が甚大になりやすく、収穫をあきらめ花茎ごと切除せざるを得なくなることもある。その場合は、切除した花茎には大量のアザミウマの幼虫や卵が付着しているため、ほ場から離れたところで蒸し込む等、埋却するなど適切に処分する必要がある。

前述のとおりヒラズハナアザミウマは増殖能力が非常に高い害虫のため、薬剤防除にあたっては必ず発生初期に行い、ほ場内で増殖させないことが基本となる。世代交代が速いことから薬剤抵抗性が発達しやすく、異なる作用機構の薬剤をローテーションで使用する事を徹底する。さらに幼果のがくの裏側に生息する幼虫に届くよう、花や幼果に対しても十分に薬液がかかるよう散布する。また薬剤感受性の程度は、ほ場ごとに大きく異なる（表1）ため、薬剤散布後は殺虫効果が出ているかをよく確認する。確認方法としては、花に生息する成虫を数えるほか、落花後の幼果やがくの裏側等を観察し、幼虫の生存の有無をみる。3日程度経っても多数の幼虫が見られる場合は速やかに別系統の薬剤により防除を行う。

成虫の発生活消長の把握及び物理的な捕殺には有色粘着シートの活用も有効である。ヒラズハナアザミウマの場合は青色のものが適する。

侵入防止には目合い0.4mmの防虫ネットの展張が有効とされるが、温度上昇等の理由により目合いの細かいネットの展張が難しい場合は、光反射資材織り込みネット等を活用することでも侵入抑制効果が得られる。しかし、完全な侵入の遮断はできないため、侵入したアザミウマに対しては施設内で増殖する前に速やかな防除を行う必要がある。

■天敵製剤を活用した防除

前述のとおり、県内夏秋どりいちご栽培ほ場に発生しているヒラズハナアザミウマは各種薬剤に対する感受性が低下している場合が多く、特に長年栽培しているほ場では有効な薬剤がほとんどなくなっている場合もある。そこで、薬剤感受性の高低にかかわらずアザミウマ類の増殖を抑えることができる天敵製剤の活用も有効な防除対策となる。

アザミウマ類を対象とした天敵製剤は複数販売されているが、長野県野菜花き試験場でこれまで検討したところスワルスキーカブリダニのパック製剤は放飼時期を工夫することで夏秋どりいちごのアザミウマ類防除に一定の効果が確認できたため紹介する。また、防虫ネットによる侵入抑制と併用することでより高い効果が期待できる。

スワルスキーカブリダニのパック製剤は、5月下旬～5月上旬の遅霜が降りなくなった時期に10aあたり200個の割合で設置する。植物の状態としては花上げ開始前の花茎が伸長を始めた頃が望ましい。

前述のとおり 5 月には野外の雑草等で既にアザミウマが増殖しており、それらがイチゴの開花とともに施設内に侵入してくるため、いちごの開花前に設置を行う。なお、パックから放出されるスワルスキーカブリダニが株上で活発に活動し始めるまでには 1 週間程度かかることも考慮する。

以降は天敵に影響の少ない薬剤で防除を行いつつ、花や幼果におけるアザミウマ幼虫の発生に注意を払う。スワルスキーカブリダニはアザミウマの若

齢幼虫のみを捕食し、成虫は捕食しないため、効果の確認は幼虫の発生程度又は被害果の発生程度で行う。幼果のがくの裏等を調査し、カブリダニの定着が確認され、アザミウマの幼虫が発生していなければ天敵が効果を発揮していると判断する。盛夏期以降、アザミウマの幼虫が多発している場合は天敵による捕食が追い付いていないと考えられるため、通常の殺虫剤による防除に切り替える。



図1 ヒラズハナアザミウマ（雌成虫）



図2 アザミウマ類による被害果(すずあかね)

表1 県内の夏秋どりいちご栽培ほ場におけるアザミウマの薬剤感受性の差異

供試薬剤	IRAC コード	希釈倍数	ヒラズハナアザミウマ成虫の補正死虫率 (%)					
			a圃場	b圃場	c圃場	d圃場	e圃場	f圃場
マラソン乳剤	1	2000	56.5	62.4	61.1	64.6	55.4	37.5
アーデント水和剤	3	1000	65.3	83.3	22.9	30.7	31.5	59.0
モスピラン顆粒水溶剤	4	2000	56.9	19.5	37.8	65.3	12.8	11.6
スピノエース顆粒水和剤	5	5000	48.1	36.2	65.8	23.1	23.8	4.2
ディアナSC	5	2500	78.3	86.0	95.1	85.1	100.0	62.5
コテツフロアブル	13	2000	54.6	70.2	61.9	92.2	40.5	0.4
グレースシア乳剤	30	2000	53.2	80.5	40.4	38.0	86.3	31.8

注) 県内複数の夏秋どりいちご栽培ほ場で夏季以降に採取されたヒラズハナアザミウマを供試し、食餌浸漬法とドライフィルム法の併用により検定を行った。

注2) 表中の農薬の適用情報は試験実施時の登録情報に基づいている。実際の使用にあたっては最新の登録情報を確認して使用すること。



図3 スワルスキーカブリダニパック製剤（左：スワルスキープラスUM、右：スワルバンカーロング）

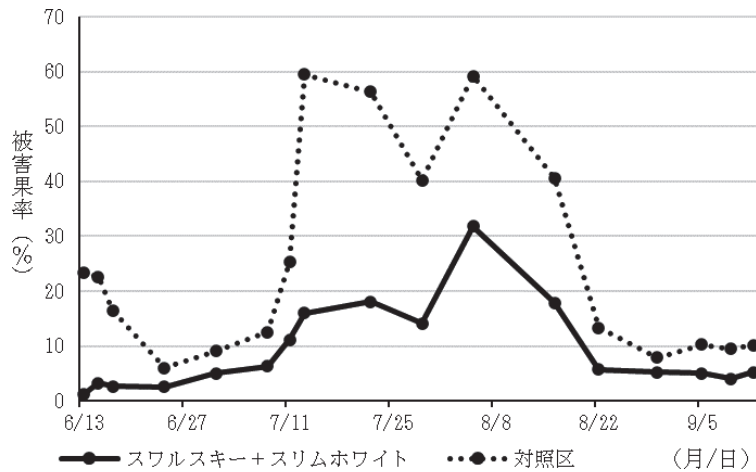


図4 スワルスキーカブリダニパック製剤（スワルバンカー）と防虫ネット（スリムホワイト45）の併用による被害果率の低減効果（2022年 野菜花き試験場）

注）スリムホワイト45は定植前から展張、スワルバンカーは2022年5月13日に10aあたり200個相当量をベンチ上に設置。試験区、対照区ともに天敵以外の殺虫剤の散布は無し。

話題の農薬

天敵“スワルスキーカブリダニ”の力でアザミウマ類、コナジラミ類を防除！



®は登録商標



写真上：スワルスキーカブリダニ

バンカーシート®とは

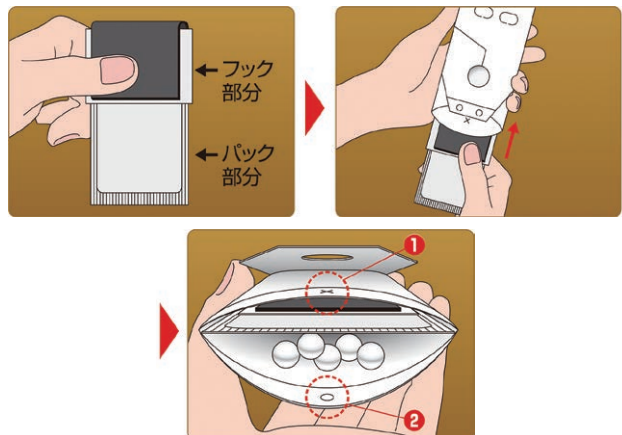
バンカーシート®は、シート内にカブリダニパック製剤を入れ、化学農薬や環境変化の影響から守る簡易型紙資材です。シート内にカブリダニパック製剤のほか、産卵基質（黒フェルト）、保水資材を入れることで、シート内に天敵の増殖に適した環境を作り出します。組み立てて圃場へ設置することで、カブリダニがシート内から長期間放出され、作物上への天敵の定着を促します。

※バンカーシート®は農研機構・中央農研を中心とした農食事業（実用開発ステージ26070C）で総合的害虫防除体系を確立、実証し、実用化に至りました。

【構成物】



【組み立て方】



スワルバンカー®ロングのご紹介

スワルバンカー®ロングは、バンカーシート®とスワルスキーカブリダニパック製剤（薬剤名「システムスワルくん®ロング」、農林水産省登録：第24554号）を組み合わせた製品です。スワルスキーカブリダニは、アザミウマ類やコナジラミ類といった微小害虫を捕食する天敵で、植物の花粉でも生育できるため、害虫発生前から圃場に放飼することができます。

スワルバンカー®ロングで使用する「システムスワルくん®ロング」には、スワルスキーカブリダニのほか、2種類の餌（従来品では1種類）が含まれています。そのため、組み立てた後のシート内でもより長く天敵へ餌が供給されるようになり、それに伴い天敵のさらなる長期間の放出、定着の安定性が期待できます。

スワルバンカー®ロングの使い方



きゅうりやなす、ピーマンなどでは、害虫の発生時期前に10a当たり150個を組立てて圃場に設置します。シート背側のフック部分を主枝へと引っ掛けて設置します（写真左）。いちごの場合は、10a当たり100～200個をフック部分の穴に竹串を通し、株元に立てて設置します。

天敵を導入する際の注意点

天敵を導入するにあたっては、ご使用する薬剤の選定にご注意ください。天敵と併用できる薬剤とそうでない薬剤がございます。下記URLより各薬剤の天敵に対する影響表がご覧になれますので、天敵の導入をご検討される際は一度ご確認ください。

石原バイオサイエンス（株）

〈生物農薬特設ページ〉

<https://ibj.iskweb.co.jp/biopesticide/>

さいごに

弊社生物農薬を通じ、生産者皆様のより安心、安全な農産物生産の一助となれますと幸いです。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

指定する研修を受けていること又は当該地方公共団体が指定する資格（農薬管理指導士等）を有していることなどの具体的な取組事例が示されています。

このため、県では毎年6月頃に開催している農薬適正使用研修会と今回実施する長野県農薬管理指導士更新研修会を、住宅地通知に規定する定期的な参加を要する研修会と位置付けています。

令和5年度の研修会の期日等につきましては次のとおりです。

○長野県農薬管理指導士養成研修会及び認定試験

1 対象者

長野県内に住所または勤務先を有する満20歳以上の農薬取扱者等で、現に農薬取扱業務に従事している者。

2 期日及び開催方式

令和6年2月21日（水）

オンライン研修

令和6年2月22日（木）

集合研修及び認定試験

場所 長野県松本合同庁舎 講堂

（松本市大字島立1020）

○長野県農薬管理指導士更新研修会（住宅地通知指定研修）

1 対象者

(1)農薬管理指導士認定期間満了者

(2)農薬管理指導士認定試験免除者

(3)植栽等の防除業者等

2 期日及び開催方式

令和6年2月13日（火）

令和6年2月16日（金）

両日ともオンライン研修

同様の内容となりますので、どちらかの期日を選択ください。

植防短信

長野県農薬管理指導士の
認定・更新について

県では毎年、農薬の使用・販売等に携わる者に対して農薬に関する専門的な研修（養成研修（認定研修を含む）及び3年毎の更新研修）を実施することにより、県が認定する資格「長野県農薬管理指導士（農薬使用者に対して農薬の適正かつ安全な使用を指導・助言する者）」を養成し、農薬の安全使用の推進を図っています。

また、国の「住宅地等における農薬使用について」の通知（以下「住宅地通知」という）では、県や市町村等の地方公共団体が管理する施設における植栽の病害虫防除等を実施するにあたり、入札の資格要件として、業務実施上の責任者が、地方公共団体が

各研修会の申し込み方法等の詳細は長野県公式HPに掲載しておりますのでご覧ください。なお、期限は令和6年1月15日となっておりますのでお早めに申し込みお願い致します。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/shidoshi.html>)



(農政部 農業技術課)

令和5年度 長野県病害虫防除研修会のお知らせ

長野県における野菜生産は、夏季でも比較的冷涼な気候を利用した産地展開が図られています。しかし、近年は、夏季高温傾向にあり、これまでみられなかった病害虫の発生が懸念されています。

そこで、今後の温暖化による県内の野菜病害虫発生の変化や、国内の温暖地域で問題となっている野

菜病害虫の防除研究の最前線について情報共有することを目的に研修会を開催します。

- ・主 催 長野県病害虫防除所
- ・共 催 一般社団法人長野県植物防疫協会
- ・日 時 令和6年3月1日(金) 13時～16時
- ・開催場所 塩尻市総合文化センター 講堂
(塩尻市大門七番町4番3号)

・研修内容

- ①「夏季高温であった令和5年の野菜巡回調査結果の概要について」：長野県病害虫防除所
- ②「夏季高温化がレタスの細菌性病害の発生の及ぼす影響について」講師：長野県野菜花き試験場
- ③「連続降雨にも耐え水田転換畑に適應できる『平高うねマルチ栽培』の特性について」講師：長野県農政部農業技術課
- ④「静岡県におけるネギ属黒腐菌核病の防除研究について」講師：静岡県農業環境技術研究所
- ⑤「天敵昆虫利用を主体としたウイルス媒介虫の防除研究について」講師：静岡県農業環境技術研究所
(病害虫防除所 若林秀忠)

協会だより

令和6年版

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」 発行のお知らせ

★★★★ 安全・確実な防除のための1冊 ★★★★★

病害虫・雑草防除の基本事項が集約されています。農薬の効果的な使い方、安全を確保する正しい使い方、総合的病害虫雑草管理(IPM)など環境にやさしい農業活動の実践のため、病害虫・雑草防除基準を活用しましょう。

令和6年2月上旬発行予定

価 格：800円(消費税込み、送料別途)

○購入方法

①長野県植物防疫協会ホームページから注文

アドレス

<https://www.nagano-ppa.jp/bojokijun.html>

「お問合せ」フォームに名前、メールアドレス、住所、電話番号を入力し、「お問合せ事項」に申込部数を入力して送信。

②FAXで注文

長野県植物防疫協会ホームページから「注文書」をダウンロードして、必要事項を記入の上、ファッ

クスで注文。

FAX番号 026-235-3583

③電話で注文

電話番号 026-235-3510 (一社) 長野県植物防疫協会

発生予察用調査資材の斡旋について

効率的かつ根拠に基づいた防除やIPMの実践などには、病害虫の発生を予測する情報等が欠かせません。当協会では、(一社)日本植物防疫協会が取り扱う発生予察用調査資材を斡旋していますので、活用して下さい。

次ページに示す資材を斡旋していますが、それぞれの製品は防除目的に使用しないことが前提です。購入希望の方は、本協会のホームページ(<https://www.nagano-ppa.jp/yosatsu.html>)から申し込んでください。

【行事】

11月16日 農作物病害虫・雑草防除基準編成会議(須坂市)

11月17日 「ながの植物防疫」編集委員会(長野市)

12月5日 朝日税理士法人会計指導(長野市)

12月14日 病害虫発生予察事業成績検討会(須坂市)

12月15日 農薬等普及展示事業成績検討会(長野市)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。
URLは<https://www.nagano-ppa.jp/kaiho.html>です。

幹旋する発生予察用調査資材

(消費税込・送料サービス 取扱商品及び価格については予告なく変更になる可能性があります) R5.12.1 現在

	品目(対象害虫名)	社名	備考	本体価格	品目(社名)・内容		備考	本体価格	色指定	
水稲野菜関係	ニカメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円	茶関係	チャノコカクモンハマキ用	住友化学	12個	8,470円	—
	コブノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
	アカスジカスミカメ用	アース製薬	12個	8,250円		チャハマキ用	住友化学	12個	8,470円	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ用	信越化学工業	12本	8,250円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
		アース製薬	12個	8,250円		チャノホソガ用	サンケイ化学	12個	13,750円	—
	アワノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		チャドクガ用	サンケイ化学	2個	11,000円	—
	フタオビコヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円	粘着式トラップ	住化式粘着トラップ(住友化学)	セット(屋根1・粘着板12)	4,730円	—	
	イネヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円		屋根のみ	6台	3,960円	—	
	マメシクイガ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着板	12枚	3,520円	—	
	ハスモンヨトウ用	住友化学	8個	12,980円		セット(屋根1・粘着板12)	4,180円	白・緑		
		サンケイ化学	12個	11,000円		SEトラップ(サンケイ化学)	屋根のみ		6台	3,960円
	シロイチモジヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着板	12枚	3,520円	—	
	ヨトウガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着板	100枚	28,600円	—	
	オオタバコガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		小型粘着板(クワシロカイガラムシ用)	(サンケイ化学)	100枚	16,500円	—
	タバコガ用	サンケイ化学	12個	13,750円		アカヒゲ・アカスジカスミカメ用トラップ(アース製薬)	粘着ネット	6枚	5,445円	—
	カブラヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
	タマナヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円	乾式トラップ	ファネルトラップ	(サンケイ化学)	1台	4,950円	—
	タマナギンウワバ用	サンケイ化学	12個	11,000円		住化式乾式トラップ	(住友化学)	1台	6,600円	—
	コナガ用	住友化学	12個	8,470円		AUトラップ	(信越化学工業)	1台	11,000円	—
	サンケイ化学	12個	11,000円	コガネコール・マダラコール用誘引器(サンケイ化学)			1台	7,480円	黄	
アリモドキゾウムシ用	サンケイ化学	12個	11,000円				1台	7,480円	白	
						1台	13,200円	透明		
果樹関係	モモシクイガ用	住友化学	12個(2ヶ月)	11,330円	粘着シート	ITシート(サンケイ化学)10巻入り	1箱	15,510円	黄	
	ナシヒメシクイ用	サンケイ化学	12個	11,000円						
	リンゴコカクモンハマキ用	住友化学	12個	8,470円						
	リンゴモンハマキ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	コスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	ヒメコスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	モモハモグリガ用	サンケイ化学	12個	11,000円						
	キンモンホソガ用	サンケイ化学	12個	11,000円						
	モモノゴマダラノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円						
	チャバネアオカメムシ用	サンケイ化学	10本	22,000円						
	スモモヒメシクイ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	ミダレカクモンハマキ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	クビアカスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	ヒメボクトウ用	信越化学工業	12個	8,250円						
	カシノナガキクイムシ用	サンケイ化学	2個	17,600円						
	ナシマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	5個専用粘着板20枚	13,200円						
	アカマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	5個専用粘着板20枚	13,200円						
	芝関係その他	マメコガネ用	サンケイ化学	コガネコールA	5,280円					
		シロテンハナムグリ・アシナガコガネ・ヒラタアオコガネ用	サンケイ化学	コガネコールC	5,280円					
カミキリ・ゾウムシ・キクイムシ・ハバチ等針葉樹寄生性昆虫用		サンケイ化学	マダラコール	5,500円						
スギノアカネトラカミキリ用(アカネコール)		サンケイ化学		9,680円						
訪花性昆虫(ハナムグリ、ハナカミキリ、ハチ等)		サンケイ化学	アカネコールBA	12,100円						